



梅雨が明け、夏本番。もうすでに悲鳴を上げるほどの暑さですが、更に真夏日や猛暑日が多くなり、熱中症への備えが必要です。感染症への予防とこまめな水分補給を行い、暑い夏を健康に過ごしてほしいと思います。

お知らせ

- ゆりぐみ、ばらぐみ、ほしぐみを対象に視力検査と聴力検査を行いました。結果を“けんこうのきろく”や“八尾っ子せいちょうぶっく”に記載し、持ち帰っていますので、ご確認ください。医療機関で行う検査とは違い、園での検査は簡易検査となりますので、異常があった場合はご家庭より医療機関を受診し、その結果を担任までお知らせください。
- 子どもの爪は1週間ほどですぐに伸びてきます。怪我の予防のためにも1週間に1度、曜日を決めて切るようにしましょう。

視力の発達について

目の発達 子どもの目は、大人と違い発達していく過程にあります。(色々なものを「見る力」を養っていく時期)また、異常は早期に発見して、適切な治療を受けることが大切です。

*めざましく発達する子どもの目については、八尾っ子せいちょうぶっく P42 をご参照ください。

視力について

測定結果の受診の目安

【測定の結果】5歳児(0.9以下) 3, 4歳児(0.6以下)は、眼科の受診をお勧めします。

以下の項目に該当する場合も眼科専門医の受診をお勧めします。

- 頭を左右どちらかに傾げる、顔を左右どちらかに回す、顎を上(下)げる
- 目(視線)が内側に寄っているまたは、外側に外れている
- 極端に近づいて見ようとする
- テレビに近づいて見る、ものを近づけて見る
- 屋外に出ると非常にまぶしがる、嫌がる
- 上目づかい(下目づかい)でもものを見る
- まぶたの形(大きさ)に左右差がある
- 瞳の中央(奥の方)が白く光る

聴力について

- 正常値は、1000ヘルツ(低音) が 30デシベル(音量) 4000ヘルツ(高音) が 25デシベル(音量)です。

*聴力検査では、1000ヘルツが30デシベルでスタートし、聞こえにくい場合は、音量を40→45デシベルへと上げていき、聞き取れた結果を記入しています。



夏に流行る病気



	咽頭結膜熱 (アデノウイルス)	手足口病	ヘルパンギーナ
症状	<ul style="list-style-type: none"> • 急な発熱 • のどの痛み • 目の充血 • 頭痛 	<ul style="list-style-type: none"> • 手足、口の中に水泡ができる • まれに発熱することもある 	<ul style="list-style-type: none"> • 39℃前後の発熱 • のどの痛み • 口の奥のほうに水泡ができる

- 上記の疾患に罹った場合、登園には登園届、意見証明書が必要になります。
- 高熱やのどの痛みで食事をとりにくくなる場合があります。脱水にならないためにもこまめな水分補給と薄味のスープや豆腐、プリンやゼリーなど、のどこしのよいものを摂取するようにしましょう。
- 手洗いうがいをを行い、感染予防に努めましょう。

夏の日ざしに注意

紫外線の浴びすぎはよくありません。夏の外出時には、必ず紫外線対策をして出かけましょう。

紫外線を防ぐ4つのポイント

- 1 日ざしの強い10時から14時までの外あそびは避ける
- 2 つばの広い帽子をかぶる
- 3 日焼け止めを塗る
- 4 長時間、日なたにいない。外出するときは、日陰で休憩する

※紫外線が増えるのは5月から。また、9月まではしっかり対策をとりましょう!

夏の水分補給

人は汗をかくことで、体温調節しています。体内の水分が不足すると、汗を出せず、体温が上がってしまいます。特に子どもは脱水症状を起こしやすいので注意が必要。こまめに水分補給を!

クイズ 正しい水分補給はどっち?

- 1 飲み方は?
 - A 1回にたくさん飲む
 - B 1回分は少なめに、回数を多く飲む
- 2 飲むなら?
 - A 炭酸飲料やジュース
 - B 水や麦茶
- 3 いつ飲む?
 - A のどが渇いたら飲む
 - B のどが渇く前から飲んでおく

気をつけて! 家電による事故を防ぎましょう

家電製品で思わぬケガをすることがあります。よく使うものだからこそ、子どもに「ダメ」と言わずに済むよう工夫しましょう。

熱くなるもの、熱気が出るもの

炊飯器 電気ポット
電気ケトル アイロン
スチーム式加湿器 など

熱湯が出るもの

電気ポット 電気ケトル
ウォーターサーバーの給湯口 など

子どもが入れるもの

洗濯機

ドラム式洗濯機では子どもが入って出られなくなる事故がありました。縦型洗濯機では、のぞき込んだ子どもが落ちるおそれがあります。

対策① 子どもの手の届かないところに置く危険な家電は、子どもの手の届かない安全な場所に置きましょう。コードを引っ張って、熱くなった家電が落下する事故も多いので気をつけて。

対策② チャイルドロックを活用してチャイルドロック機能があるものはぜひ活用しましょう。解除のひと手間はありますが、「ダメ!」と言う必要がなくなります。